

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	ライブ・エンタテインメント2	
科目基礎情報							
開設学科	音響芸術科		コース名	全専攻		開設期	後期
対象年次	1年次		科目区分	必修		時間数	30時間
単位数	2単位		授業形態	講義			
教科書/教材	授業内で資料プリントを配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。						
担当教員情報							
担当教員	三好・山崎			実務経験の有無・職種	有・レコーディングエンジニア		
学習目的							
後期に実施。前期の基礎を踏まえた上で実際の舞台音響のあり方や、イベントの詳細などエンタテインメントの要素を中心に学習する。世界的な記録を作ったアーティストの認識と日本国内の音楽事情についても触れる。様々なアーティストを通してライブエンタテインメントとコンサートなどの音響技術全般、各種楽器の仕組みと音色の把握ができるようになることが主な目的となる。近年の音響エンジニアはレコーディングエンジニアとして仕事以外にもアーティストの担当として、ライブにおいても音響のアドバイザーとしての仕事を務める事もあり、幅広い知識を獲得しておくことも重要である。							
到達目標							
音響のエンジニアとしてだけでなく、様々なエンタテインメント分との関わりを持てる知識を得ることが目標である。近年ではライブ・イベントの動員数は増加傾向にあり、音のプロフェッショナルとしてそうしたイベントに積極的に関わっていく事も重要である。例えレコーディングエンジニアのみの職業であっても、イベント時のアーティストの音やパフォーマンスに対して知識を得ることにより、より深い音作りへの貢献ができるようになる。							
教育方法等							
授業概要	基本はプリント資料を適時配布し、自分で完成させるワークタイプのプリントを配布することもある。講義形式の授業である。前回までの各項目を理解した上での次項目へ繋がるため、復習も随時行いながら進行する。復習や仮説においては各自の発言機会もあるので、積極的な参加が望ましい。映像、音響資料も多用するので、音の聞き分けができる心構えも必要である。						
注意点	この授業では、音を扱うプロとしてノイズと捉えられる授業中の私語や受講態度などには厳しく対処する。 公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。 授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	40%	試験と課題を総合的に評価する				
	小テスト	30%	授業内容の理解度を確認するために実施する				
	レポート	0%					
	成果発表表 （口頭・実技）	20%	授業時間内に行われる発表、内容について評価する				
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する				
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1回	放送されない歌と時代背景			社会背景と歌、スポンサーについてわかる。			
2回	無くなった仕事とこれからの仕事			活動弁士などの仕事の置き換わり、イベントの仕事についてわかる。			
3回	シンセサイザーの登場とコンピュータ			アナログシンセのパフォーマンス的な演奏と移り変わり、コンピュータについてわかる。			
4回	ビルボード誌とオリコン誌			二本と海外の音楽雑誌、音楽メディアについてわかる。			
5回	音楽売り上げランキング1			世界のレコード、CD、配信のランキングについてわかる。			
6回	音楽売り上げランキング2			日本のレコード、CDのランキングについてわかる。			
7回	ライブ動員のランキング1			日本と世界日本のイベントと世界のイベントについてわかる。			
8回	ライブ動員のランキング2			ライブとイベントの会場とアーティストについてわかる。			
9回	PAの仕事			PAとSRの違いについてわかる。			
10回	PA機器1			ミキサー卓とモニター卓についてわかる。			
11回	PA機器2			スピーカーと舞台設備についてわかる。			
12回	規模別のPA			インストアライブ、レストランからドーム、ホールのPAシステムがわかる。			
13回	PA関連用語			現場の用語についてについてわかる。			
14回	スポーツ・イベント			音楽以外のイベントについてについてわかる。			
15回	前期まとめ			上記内容の復習			